

## VI. 展開版カリキュラムの活用方法

### 1. 展開版カリキュラムを活用した研修実施主体として想定される団体等

展開版カリキュラムを活用した研修実施主体として想定される団体等については、ケアマネジャーに対する研修を実施している自治体や地域包括支援センター、各種関係団体が想定される。

都道府県は法定研修を行っているため、法定研修を補う任意研修として実施することなどが考えられる。市区町村や地域包括支援センターは、ケアマネジャーに対する支援を役割として担っていることから、研修機会等に本カリキュラムを活用してもらうことが想定される。

また、介護支援専門員協会や居宅介護支援事業所等の連絡会などで研修を企画する際に本カリキュラムを活用してもらうことも考えられる。

#### <研修実施主体として想定される団体等>

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・都道府県</li><li>・市区町村</li><li>・地域包括支援センター</li><li>・各地域の居宅介護支援事業所の連絡会、各種団体 / 等</li></ul> |
|---|

### 2. 研修の展開方策

研修実施主体においては、就労している家族介護者の仕事と介護の両立、介護離職防止について、ケアマネジャーから支援の現場の情報を収集することで、ケアマネジメントの現場における、本テーマに関する課題や研修ニーズを把握することができる。その点を踏まえて、研修の展開方法を検討することが大切である。

研修の展開では、研修ニーズを踏まえ、本カリキュラムを活用した研修を、ケアマネジャーを対象とした年間の研修計画に位置づけることも展開方策として重要となる。新規の研修として計画するほか、既存の研修計画に、プログラムの1つとして組み込むことも考えられる。

また、研修実施主体より、ケアマネジャーに対して研修意欲の働きかけを行い、受講者の確保・拡大を行うことも大切である。日ごろの業務の中で、本テーマに関して課題解決につなげたいこと、課題への気づきを得られることなどを情報提供し、ケアマネジャーが日ごろ抱えている家族介護者支援に関する課題への解決につながる研修内容となるよう工夫することで、研修への参加意欲が高まるものと考えられる。

### 3. 研修企画・研修運営方法

研修の企画や研修の運営にあたっては、本事業において、仕事と介護の両立支援の展開版カリキュラムと研修運営マニュアルを用意している。

展開版カリキュラムには、研修の目的、研修カリキュラム全体構成、研修内容の解説、研修用資料等、研修に必要となる情報が整理されている。また、研修運営マニュアルには、研修の企画・準備から、研修の実施、研修後のフォローまで、運営に関わる解説を具体的に行っている。これらを活用し、全てのカリキュラムを盛り込んだ研修を行う方法、既存の研修等で、一部分を活用して研修を行う方法など、目的に応じて、様々な活用が可能である。

#### 4. 講師への支援、育成

展開版カリキュラムには、研修用資料に対する講師用解説、事例のポイント、研修の振り返り方法等を解説しており、これらを事前に踏まえておくことで、一定の質を保ちながら講義を行うことが可能となっている。本テーマの研修講師には、仕事と介護の両立に関する知識が必要となるため、研修前に、本研修カリキュラムを活用した事前研修や説明会を設けることも有効である。

本カリキュラムを活用した研修を継続して行うためには、講師養成の研修会を行い、講師を担う人材育成していくことも考えられる。